

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立熊野高等学校 校長名： 左 近 晴 久

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）	学校評価の公表方法	現状・進捗度	A	十分に達成している。	（80%以上）
			B	概ね達成している。	（60%以上）
			C	あまり十分でない。	（40%以上）
			D	不十分である。	（40%未満）
個を認め合い多様性を尊重する中で、個々の進路に応じた知識や技能を身につけさせると共に、情報活用能力、課題解決力、コミュニケーション力などの、社会生活を営む上で必要な力の育成をめざす。		インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。			

自己評価（分析、計画、取組、評価）								学校関係者評価（2月14日実施）	
番号	計画・取組				評価（1月31日現在）			・各中学校を訪問し、本校の特色を説明して生徒確保に努める。	・今後、ホームページがリニューアルされると聞きました。最新の情報が常に更新され、更に充実した情報発信に期待します。
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策		
1	授業の充実と、確かな学力の育成を図る。	C	教材研究に力を入れるとともに、生徒が主体的に取り組める授業展開を工夫するなど、授業力向上を図る。 総合学科においては、特に選択科目において進路希望に応じた学力の定着を図る。 看護科においては、基礎学力の定着を図るとともに、専門性を高めるための丁寧な指導と補習等を実施する。	学習指導要領の趣旨に則り、指導と評価の一体化を進め、常に授業改善に努められたか。 生徒の進路目標に則した学力向上を目指す取組ができたか。 基礎学力向上を目指した丁寧な指導できたか。	C B B	新評価の方法、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価が難しい。 担任による進路希望に応じた科目選択指導の充実と、教科担任による指導ができた。 基礎学力向上及び学科の特性に応じたカリキュラムの変更を行った。	来年度は新学習指導要領の完全実施に伴い、新評価における課題を集約し、評価方法の改善を図る。	・玄関周りの庭園の美化、庭木の剪定等、一度徹底的に行ってはどうかと思う。	・学校全体の雰囲気が落ち着いていて良いと思います。
2	キャリア教育をさらに推進し、生徒の希望進路の実現を図る。	B	進学・就職に対応できる学力と共に、自身の進路について様々な情報を収集・整理し、具体的方向付けができる力を身につける。 キャリア教育を通じて勤労観・職業感を高める。 看護科においては、実習や卒業生との交流等を通して看護師として必要な素養および意識を高める。	進路実現に向けての段階的・系統的な取り組みが効果的になされているか。客観的な学力分析や多岐にわたる進路希望への組織的な対応ができているか。 生徒自身が自ら考え行動し決定できるキャリア教育がなされているか。低学年より校内外のガイダンス・補習を効果的に実施し、進路未定者を減少させる取り組みが系統的に進められているか。 看護科5年間を見通した継続的な指導が行われているか。継続的・多面的な進路指導の実施により希望進路の決定率向上を図れているか。	B A A	求人票管理システムを採用し、1,000枚を超える求人票が生徒の端末で検索できるようになった。また、進学受験報告書もteams内で閲覧可能。推薦入試利用者が多く進学模試受験者が少ないことが課題である。 1学年より各種ガイダンスを段階的に実施し、3学年では面接・プレゼン・出願指導等より実践的な取り組みを行った。進路未定者に対しては、個人の希望を第一に考え、担任団、ハローワーク等と連携して取り組みを進めている。 授業や実習指導を通して、看護師国家試験に合格できる知識のみでなく将来活躍できる看護師へと成長するために各学年に応じた内容で指導を行った。	スタディサブリ委員会と連携して、進路実現のための自己学習教材（大学入試・公務員試験対策など）の利用を推進する。また進学、看護、公務員模試の案内も積極的に言い受験者増に努める。職場見学の期間を確保するため、7～8月の求職関係のスケジュールを精査する。看護科においては生徒のモチベーションを高めるため、引き続き工夫を重ねていく。		
3	地域連携の活動を通してその意義を理解し、生徒の主体的な活動の向上を図る。併せて防災意識の向上を図る。	B	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。 マンスリータイムズやアセンブリー等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。 上富田町との合同防災訓練を実施する。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年二回行う。 ホームページへ掲載し広報活動を行う。 緊急時の避難行動や救命措置を適切にとることができるか。	B B B	用水路清掃及び3年生による地域清掃を実施した。 マンスリータイムズをホームページに掲載した。ホームページの刷新に向けて動き出した。 地域住民の避難場所として、災害時には支援者となるべく、消防本部・自衛隊の協力による大規模な体験訓練を実施した。	地域貢献活動については、コロナ禍があけたこともあり、学校行事やクラブ活動、生徒会活動として達成できた。また防災を含め高校生として自分たちの役割を認識できている。次年度はホームページの刷新の完成と活用、学校行事に於ける生徒の主体性を育むことを課題としたい。	・この地域の人口減少は深刻な問題であり、熊野高校単独で受検生徒数増を考えるのではなく、近隣の高校全体でこの地域の将来を考えていかなければならない時代にきている。	
4	SCや関係部署等とも連携を密にしながら、挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	B	頭髮服装指導を全職員で行う。新入生宿泊研修・在校生校内研修を通してマナーや連帯感を高める。 駐輪指導、登校時自転車通学指導等の交通安全指導を充実させる。遅刻・無断欠課防止週間を設定し、事後指導を行う。 SC等との情報共有を行い組織的な対応を行う。	学年アセンブリーでの点検指導の後も指導を継続できているか。 校内巡視及び校門指導等を継続して行っているか。全校生徒に対する二輪運転に関する交通安全指導が年一回以上行われているか。遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行っているか。 専門家や外部機関と連携した取組を行っているか。	B B B	感染予防対策を講じ、学年アセンブリーで生活指導担当の講話や点検指導を行った。新入生研修については、1泊2日の日程で、コロナ禍以前の研修内容で実施できた。 登校時の交通指導については、日々の校門・駐輪指導に加え、PTAと連携し保護者の送迎についても、学校周辺道路の交通安全に協力依頼した。 SC・SSWの来校日に、ケース会議を開催し、専門家による見立てや事後指導など組織的に対応した。	新入生の一斉研修や全校アセンブリーがコロナ禍前の形に戻ってきたが、以前のような効果は得られていない。挨拶やマナーについては、学校の風土として、上級生の様子を下級生に伝えられるよう、在校生に継続的に指導していく。生徒・保護者対応では、教員だけで相談するのではなく、専門家による見立てや外部機関と連携する体制が構築されつつあり、確立に努める。		